

26年6月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 5月20日～ 26年6月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/6月	7月	8月
伐採動向	スギ	△ 8.3	25.0	16.7
	ヒノキ	0.0	12.5	12.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	100.0	100.0	100.0
出荷・販売動向	スギ	△ 8.3	16.7	16.7
	ヒノキ	0.0	33.3	33.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 20.0	△ 20.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 50.0	△ 33.3
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0

伐採は、スギは6月の減少後、7、8月は増加に、ヒノキは6月の横ばいが7、8月は増加に、カラマツは減少傾向で推移、エゾ・トドは増加傾向で推移。

出荷・販売はスギは6月の減少の後7、8月は増加に、ヒノキは6月の横ばいが7、8月には増加に、カラマツは横ばいで推移、エゾ・トドは増加傾向で推移。

在庫は、スギ及びカラマツは減少傾向で推移、ヒノキは6月の減少後、7、8月は横ばいに、エゾ・トドは増加傾向で推移。

モニターからのコメント

(伐採動向) ・6月から国有林のトドマツ間伐請負に従事しトドマツは増加、一般にトドマツ及びカラマツ需要旺盛で伐採量増加と予想。

- ・受注時期遅れ。
- ・スギは価格が落ち着いているせいか動きが鈍い、カラマツは引合いあるが品不足で落ち着いた状況。
- ・

(出材・販売動向) ・トドマツ及びカラマツは需要旺盛で出材・販売は増加と予想、ただし運材車の絶対数が足りず山元から運べないことが問題。

- ・カラマツは丸太不足で価格が下がらない。
- ・梅雨のせいか市場への出荷が減少している。
- ・梅雨に入り伐採を控えている。害虫の被害が出始めているため。
- ・

(手持ち立木在庫) ・6月以降、国有林の立木公売でトドマツ山を購入予定で、立木在庫増加の予定。

- ・手持ち少なくなってきた。